

働く女性の健康問題を多視点から読み解く 1 冊 『働く女性と健康—多様な視点からのヘルスケア』

東京大学名誉教授 武谷 雄二 著

評者：今村 聡 日本医師会副会長

●A5 頁165 2015年
本体 1,800 円＋税
公益財団法人 産業医学振興財団
ISBN978-4-915947-60-5



少子高齢化社会が急速に進展する中、先の通常国会で「女性活躍促進法」が成立するなど、働く女性の活躍の場を広げることが、我が国社会全体として喫緊の課題となっている。

しかしながら、増加する働く女性の健康問題や、それを支える社会全体の支援の問題について触れた論述が少ないということが、かねてから気になっていたところである。

こうした中、東京大学名誉教授で、同大医学部附属病院長も務められた武谷雄二先生が『働く女性と健康—多様な視点からのヘルスケア』を出版された。

武谷先生は、永年にわたり産科・婦人科学の研究者として、また、産婦人科の医師として一貫して女性の健康問題に取り組んでこられ、そのご功績はつとに著名である。近年は、独立行政法人労働者健康福祉機構の理事長として、働く人々全般の健康確保の問題にも積極的に取り組んでおられる。

本書は、序文にもあるように、女性の社会進出を積極的に評価しつつ、男女間の身体的機能の違い、疾患に罹患するリスクの性差、さらに男性の勤務様式の抜本的見直しも含めた社会全体の支援の必要性等といった問題意識の下、いかに働く女性の健康を守るかについて様々な角度から論じたものである。Ⅰ 働く女性と月経、Ⅱ 働く妊婦の健康管理、Ⅲ 職業と女性の生殖、Ⅳ 更年期をどう乗り切るか、Ⅴ 夜間労働の健康への影響、Ⅵ 勤労女性と婦人科疾患、Ⅶ がんの治療と仕事の継続、Ⅷ 仕事とストレス、Ⅸ 働く女性とメンタルヘルス、Ⅹ 女性によくある職業関連疾患、Ⅺ 女性と仕事をめ

ぐって、の全11章に付説「女性の就労の歴史」を配した構成からも、著者の多様な問題意識が窺えよう。

全編を通じて産科・婦人科学の泰斗としての最新事情も含む知見がふんだんに盛り込まれていることは言うまでもないが、ご専門たる産科・婦人科学にとどまることなく、精神医学や社会学、公衆衛生学ほかの周辺諸学、さらに内外の各種統計に至るまで、多くの文献・資料の博搜の中から紡ぎだされる解説は秀逸であり、分野・領域を横断した記述は本書の大きな特徴の一つとなっている。その底流に一貫して流れているのは、働く女性の健康管理に役立つように、さらには働く女性の抱える悩みや問題への社会の理解と共感が得られるようにという著者の思いと温かい眼差しである。

また、これらの諸論考を全編にわたって特徴づけるのは、“働く”女性という視点である。産業医学の祖、17世紀イタリアの医師・ラマツィーニは、「我が神来の師ヒポクラテスがその著『疾病論』で述べたように、“患者の家を訪ねた時は、病人に痛みはどうか、原因は何か、具合が悪くなってどのくらいか、通じはあるか、どんな食べ物を食べているか”を聞かなければならない。私はそれに一点、すなわち、“職業は何か”という質問を付け加えたい。」と、その著『働く人の病』の序文で述べている。

このように疾病の背後に職業を見るという視点は、日常の診療場面はもとより、医療、保健に携わる方々にとっても大いに参考になるものであろう。本書はそうした素地を涵養する上でも、この上ない手引書となるものと思ひ、推奨する次第である。